

100m走タイムチャレンジ

「東京レガシースタジアム2025」3日目の10月19日午後、国立競技場のトラックで「100m走タイムチャレンジ」が行われました。事前の申し込みで参加した一般ランナー約80人が国内外のトップアスリートたちが数々の名勝負を繰り広げてきた夢の舞台を快走し、記録に挑戦しました。

参加したのは、先着順に事前申し込みをした小学生から19歳までの一般ランナー。直前まで東京レガシーハーフマラソンのフィニッシュ地点でもあった国立競技場の茶色いトラックのメインストレートを走り、ゼッケンに付けたセンサーで100mのタイムを計測しました。

また、ランナーの家族や友人ら約80人も観客席からグランドに降りて、トラックの間近で応援しました。日本陸上競技連盟のマスコット、アスリオンと渋谷区観光協会の SHIBUYA♡HACHI も駆けつけ、かわいい仕草でイベントを盛り上げました。

M C は日本マラソン財団スポーツレガシー事業チャリティ・アンバサダーのM高史さん。スターーはバルセロナ五輪女子マラソン銀メダリスト

の有森裕子さんと棒高跳びの日本記録保持者、澤野大地さんが務めました。

開会式で、有森さんは「皆さん、こんにちは。元気ですか。100mは短いようで長いです。最後まで諦めず、ゴールテープを切るまで頑張ってください」、澤野さんは「世界陸上の会場で走ることができるのはいい経験です。楽しみながら走ってください。私もチャンスがあれば、一緒に走ります」と参加者を激励しました。

参加者はまずスタートラインの後に集まって、全員でウォーミングアップの軽い体操をした後、年少者から順番に3～5人が1組になって、有森さん、澤野さんの「オン・ユア・マーク、セット～」の掛け声に続く「パン」という号砲で、次々とスタート。トラック脇からの家族の声援を受けながら、ゴールを目指して懸命に走っていました。

参加者はゴールすると、そこでイベントは終わりとなります が、アスリオンや SHIBUYA ♡ HACHIと一緒に記念写真を撮ったりして、夢の舞台での時間を名残惜しそうに楽しんでいました。

東京都江戸川区から参

加した小学5年の女の子は「世界陸上を国立競技場で見ました。走ることが大好きで、お父さんが誕生日のプレゼントに申し込んでくれました。澤野選手と一緒に走れて、サイコーにうれしかったです」と満面の笑みでした。

東京都日野市から来た11歳の男の子は「おばあちゃんに勧められて、面白そうだから参加しました。緊張したけど、よかったです」と、ゴール直後に息を切らしながら話してくれました。

千葉県浦安市から参加した中学2年の男の子は「陸上部で短距離をやっています。世界陸上をテレビで見て（このイベントに）出たいと思って参加しました。同じ場所で走れて、うれしかったです。途中、足が持っていかれる感覚があったけど、楽しかった。これから妹も走ります」と話すと、今度はトラックの外から妹に声援を送っていました。